

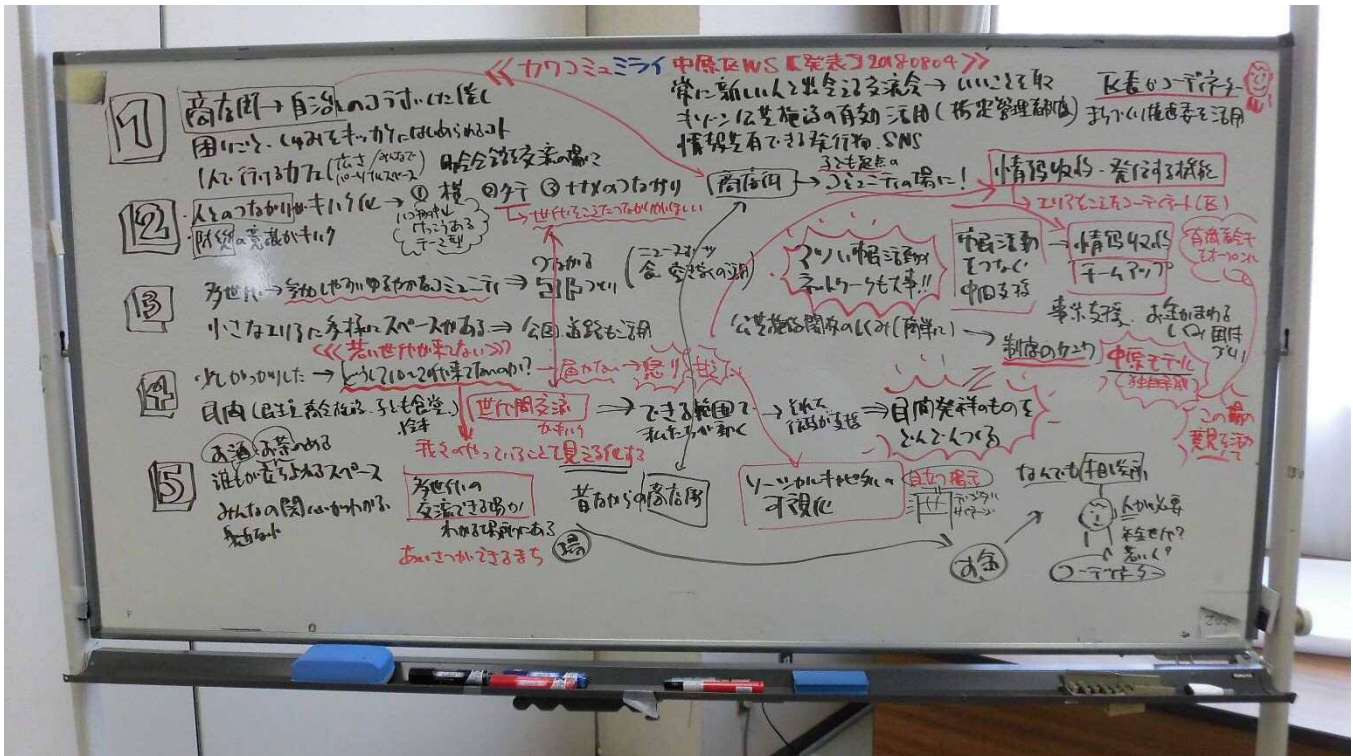
これからの地域づくりを考える
市民検討会議ワークショップ
中原区 開催結果概要

- ◎開催日時 2018(平成30)年8月4日(土) 13:30~16:50
- ◎開催場所 中原区役所5階503会議室
- ◎参加者 30名 他30名(事務局、コンサルタント、各区傍聴者)
- ◎内容 開会あいさつ 阿部市民文化局コミュニティ推進部長
ワークショップの目的と進め方
グループワーク
・自己紹介
・テーマ1 地域おける検討ポイント
・テーマ2 区域おける検討ポイント
グループワークの発表
閉会あいさつ 小野中原区役所企画課長

◎出された主な意見

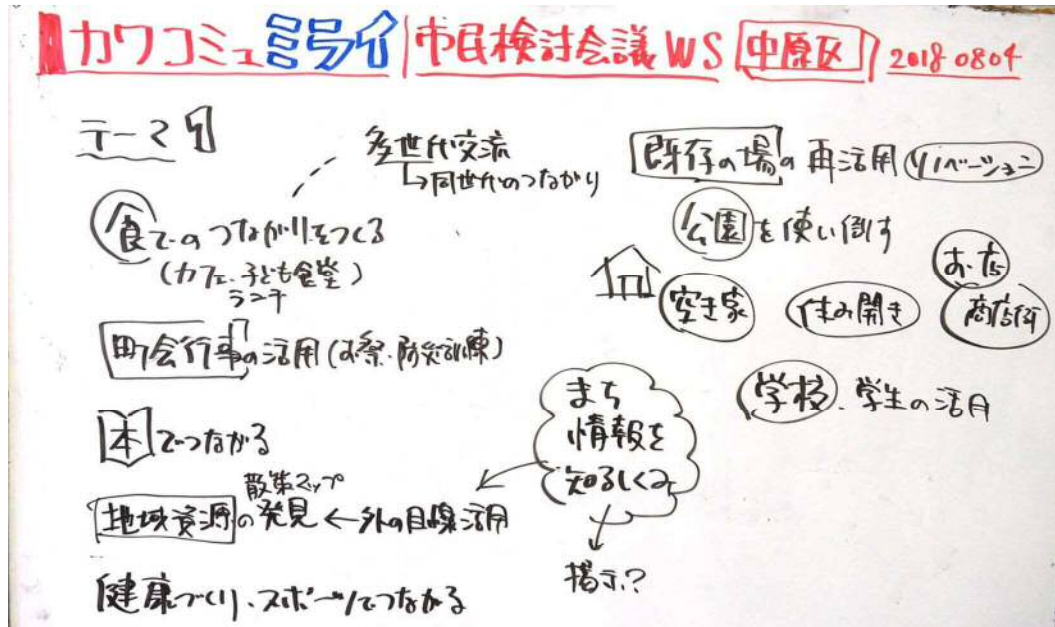
- ・商店街とコラボレーションした取組を、商店街を子ども起点のコミュニティの場に
- ・人のつながりが希薄化している、ヨコ、タテ、ナナメのつながりをつくるのがポイント
- ・誰もが立ち寄れる、多世代が参加しやすいゆるやかなコミュニティスペースが必要
- ・小さなエリアに多様なスペースがあるといい、既存公共施設、道路や公園も活用を
- ・未来を担う若い世代の参加を、そのための情報発信力の強化を
- ・行政に頼るだけでは未来は切り拓けない、自分たちで動くことも大切





市民検討会議ワークショップ（中原区）のまとめ

5つのグループの Point



テーマ1 地域における検討ポイント

つながるためのキッカケ・しくみ

- 食でのつながりをつくる
→カフェ、ランチ、子ども食堂
- 多世代交流 ⇔ 同世代のつながり
- 町会行事の活用
→お祭り、防災訓練
- 本でつながる
- 健康づくり、スポーツでつながる

まちの情報を知るしくみ

- 掲示板の活用 サイネージ等の情報掲示による見える化
- 地域資源の発見
→散策マップ

→外の目線を活用

場所

- 既存の場の再活用 →リノベーション
- 公園を使い倒す
- 空き家
- 住み開き
- お店・商店街
- 学校・学生の活用
- 町会会館

グループ発表



1グループ

- 商店街×自治会とのコラボした催し
→防災訓練でつながる、地域行事に商店街の飲食店を活用する
- 困りごとや趣味をキッカケに集まり、できることから始めよう
- 気軽に行ける・集まれるカフェ
→一人でいける／開放的な広い空間だがパーソナルスペースも確保／可変的

- 町会会館、マンションの交流室を交流の場に
- 既存の公共施設の有効活用（なかはらっば）
- 常に新しい人と出会える交流会
 - 他区域のいいところ取りができる
- 情報共有できる発行物、ご近所版 SNS の活用
- 区長がコーディネーターに
- まちづくり推進委員を活用しよう

2グループ

- 人とのつながりが希薄化
 - ①横（同世代）、②縦（世代間）、③斜め（年代の近いつながり）
 - ①横のつながりは足りている。箱物の中、結構あるテーマ型
 - ②③縦のつながり、世代を越えたつながりが欲しい！
- 防災の意識が希薄
- 商店街に後継者がいない
 - シニアと子どもの交流の場に
- 子どもが地域の人をつなぐハブになる
- 情報集約・発信する機能
 - エリアを越えたコーディネート（区）

3グループ

- 多世代が参加しやすいコミュニティ
 - つながるコトづくり
 - ニュースポーツ、食、空き家の活用
- 小さなエリアに多様なスペースがある
 - 公園、道路も活用
- 熱い市民活動のネットワークも大事

- 市民活動をつなぐ中間支援
 - 情報集約・チームアップ
 - 事業支援
 - お金が回るしくみ・団体づくり
- 公共施設開放のしくみ（簡単に）
 - 制度の緩和
- 中原区モデル（独自条例など）
 - 特区の活用、制度づくりへの市民参加、担当が代わってもしくみが残る
- 有識者会議の内容をもっとオープンに、この場の意見を活用

4グループ

- このワークショップに若い世代（10～20代）が来ていないことにごっかりした
 - 情報が届かないことへの怒り、もっと人を集める努力ができなかった甘え
 - ワークショップで我々のやっていることを見える化する必要がある
- 民間の力が大事！できる範囲で私たちが動く
（民生委員、高齢者施設、子ども食堂、絵本）
 - 世代間交流が希薄
 - それで行政が支援
 - 民間発祥のものをどんどんつくる

5グループ

- 誰もが立ち寄れるスペース
 - お酒、お茶が飲める場所
- みんなの関心が分かる身近な情報
- 多世代の交流ができる場が分かる場所にある
- あいさつができるまち
- 昔ながらの商店街
- ソーシャルキャピタルの可視化

- 目立つ掲示をする
- デジタルサイネージ

○何でも相談所・コーディネーター

- 人が必要
- 年金世代？若い人？

これからの地域づくりを考える

市民検討会議ワークショップ

「地域でつながるって楽しい！」～参加と協働の新たなしくみワークショップ～

宮前区 開催結果概要

◎開催日時 2018(平成30)年8月5日(日) 13:30～16:50

◎開催場所 宮前区役所4階大会議室

◎参加者 34名 他25名(事務局、コンサルタント、各区傍聴者)

※事業者、区職員(企画課・地域振興課・地域ケア推進担当、地域支援担当)もグループワークに参加

◎内容 開会あいさつ 阿部市民文化局コミュニティ推進部長

ワークショップの目的と進め方

グループワーク

- ・テーマ1 自己紹介を通して活動の強みや得意分野を出し合おう
- ・テーマ2 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を出し合おう
- ・テーマ3 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を実現させるためのアイデアを出し合おう

グループワークの発表

閉会あいさつ 小田嶋宮前区長

◎出された主な意見

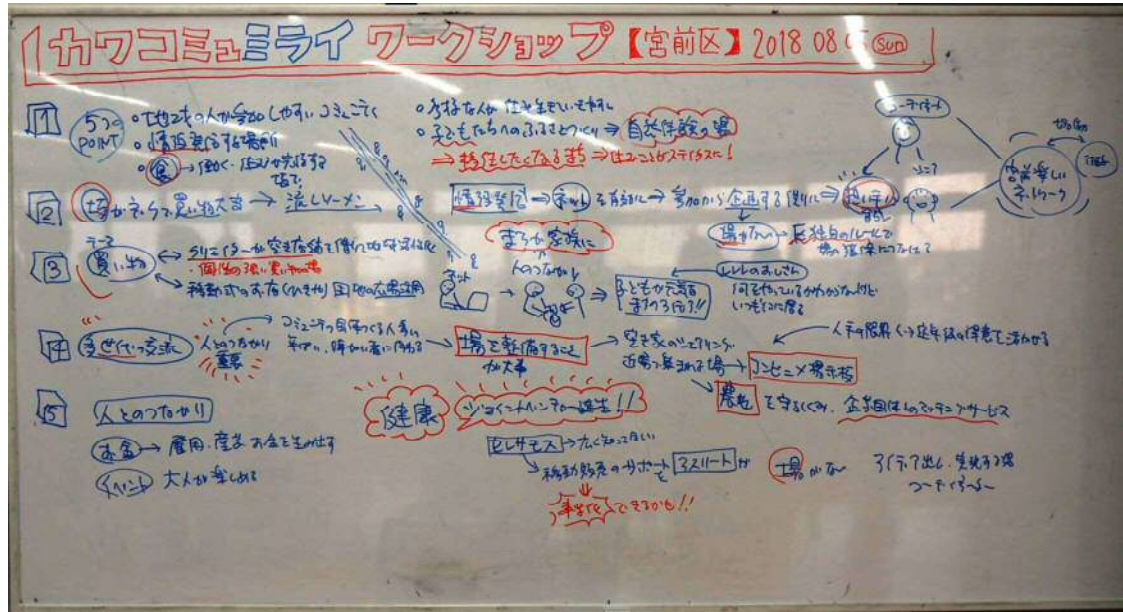
- ・地域の人が参加しやすいコミュニティ、情報発信する場、多様な人が住みやすいまちに
- ・坂のまちのデメリットを逆転の発想で楽しむ、富士見坂で流しソーメンのイベントをしかける
- ・団地の広場空間を活用した移動式店舗で買い物難民の解消、クリエイターの空き店舗活用
- ・人とのつながり、多世代交流が大切、空き家、農地、コンビニなど多様な空間活用で場の整備
- ・新しい地域での働き方が可能となるような雇用の場や産業、お金を生み出すことが必要
- ・企業と市民活動団体のマッチング、それらをつなぐコーディネーター機能が重要





市民検討会議ワークショップ（宮前区）のまとめ

グループ発表



1グループ

- 地域の人に参加しやすいコミュニティ
- 情報発信する場所
- 食→働く・住むが完結する
- 多様な人が住み、生きていきやすい
- 子どもたちへのふるさとづくり→自然体験の場
→移住したくなるまち→住むことがステータスに！

2グループ

- 坂がネックで買い物が大変
→坂で流しソーメンをするなど逆転の発想を

○情報発信が必要

- ・ ネットを有効に活用する
- ・ 場がないことが課題
 - 参加から企画する側に
 - 区独自のルールで場の確保につなげて

○担い手の育成が必要

- シニアによるコーディネート及び担い手育成
- 宮前楽しいネットワークをつくる（⇔行政と協働で）

3グループ

○テーマ：買い物を通して地域を活性化

- クリエイターが空き店舗を借りて地域活性化→個性の強い買い物の場をつくる
- 移動式のお店（ひきや）団地の広場活用

○まちが家族に

- ・ ネットから人のつながりができてまちが家族に
- ・ 子どもが元気なまちにはレレレのおじさんのような、何をやっているか分からないけど、いつもそこに居る存在が大事

4グループ

○多世代の交流→人とのつながりが重要！

- ・ コミュニティの団体をつくる人が多い、年配、障害者に関わる

○場を整備することが大事

- 空き家のシェアリング、近場で集まれる場
- コンビニを地域の場として活用（掲示板もコンビニに）
- 人手の限界⇔定年後の得意を生かせる

○農地を守るしくみができている

○企業団体のマッチングサービスがある

5グループ

○人とのつながり

- ・ お金→雇用、産業、お金を生み出す
- ・ イベント 大人が楽しめる

○健康をテーマにグループからジョイントベンチャー誕生！

- ・ セレサモスの移動販売を区内のアスリートが行うビジネスモデル
 - 区内の野菜のこともアスリートのことも広く知ってほしい
 - 事業化できるかも！！

○場がない

- ・ アイデア出し、実現する場、コーディネーターが必要

これからの地域づくりを考える

市民検討会議ワークショップ

麻生区 開催結果概要

◎開催日時 2018(平成30)年8月18日(土) 13:30～16:30

◎開催場所 麻生区役所4階第1会議室

◎参加者 30名 他26名(事務局、コンサルタント、各区傍聴者)

◎内容 開会あいさつ 阿部市民文化局コミュニティ推進部長

ワークショップの目的と進め方

・麻生区の市民活動～麻生の皆さんと積み重ねたあゆみ～

グループワーク

・自己紹介

・テーマ1 活動を上げていく上であったらいいものを出し合おう

・テーマ2 地域活動のきっかけづくりのアイデアを出し合おう

・テーマ3 住民同士、団体同士がつながることであまれるものって何だろう？

お互いが協力することでできることについて、アイデアを出し合おう

グループワークの発表

閉会あいさつ 多田麻生区長

◎出された主な意見

・ふらっと来て気軽に使える場を拠点とした子どもや親の交流の担い手づくり

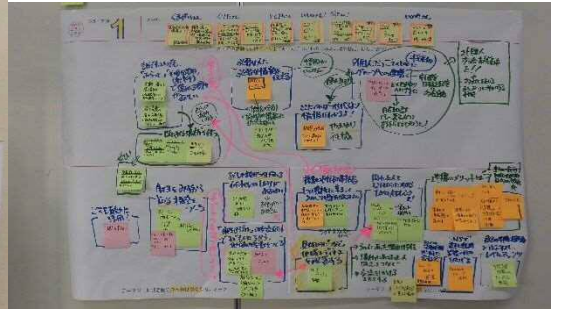
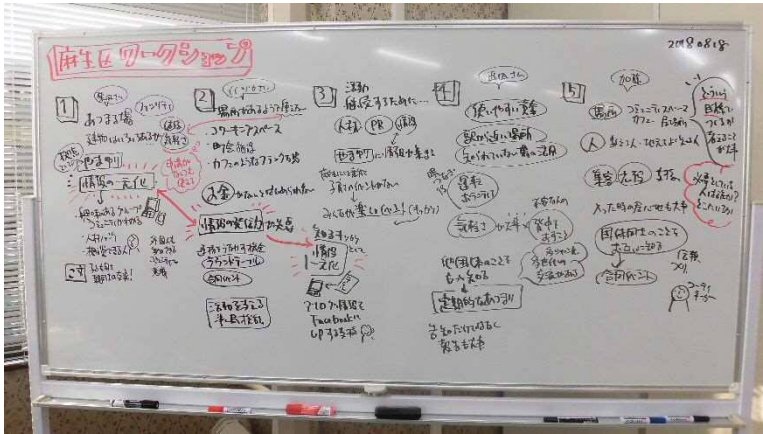
・コワーキングスペースや空き家を活用した街かどカフェの整備、気軽に参加できるラウンドテーブルが必要

・活動を知るきっかけとして情報の一元化が必要。アナログ情報をFacebookにアップする支援があると良い

・団体同士のことをお互いを知る定期的な集まりや合同イベントを開催

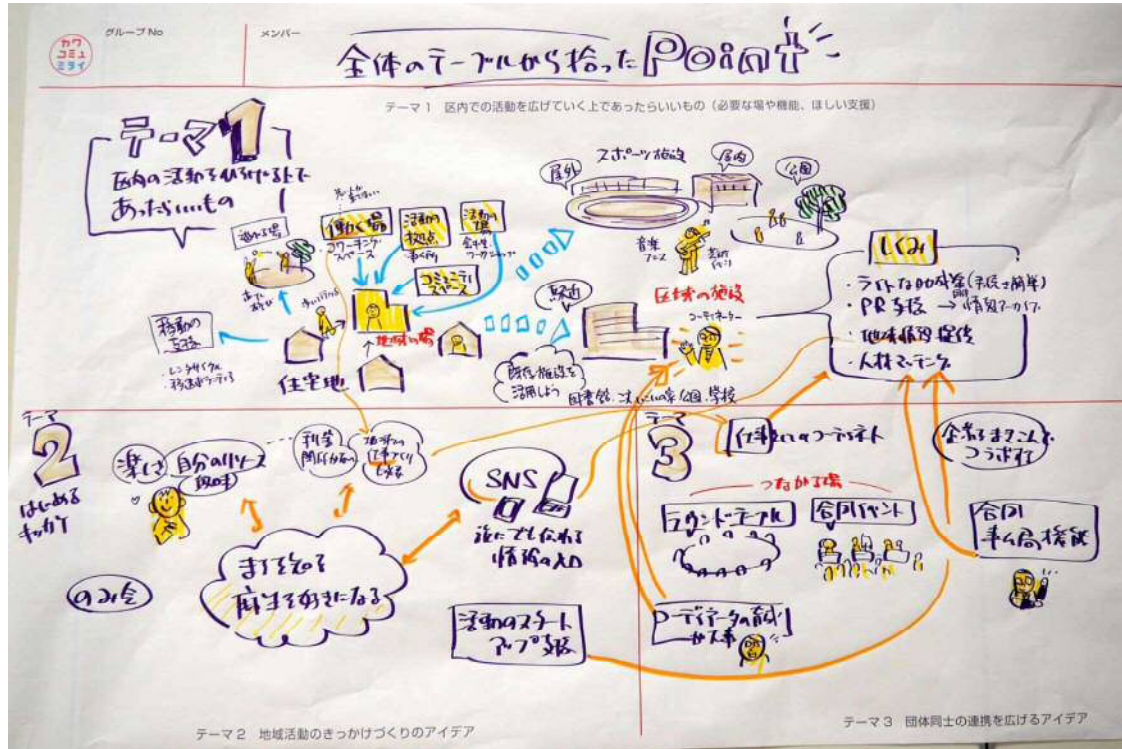
・そこに関わる人の思いや考えを活かした場づくり、目標をつくってから場づくりを行うことが重要





市民検討会議ワークショップ（麻生区）のまとめ

5つのグループの Point



テーマ1 区内の活動を広げる上であったらいいもの

地域の間 ～住宅地（歩いていける範囲に地域の間がある）

○働く場

- 地域の中に若い人がいる状況をつくるには、地域に仕事をつくる
- コワーキングスペース

○市民活動の拠点

- 団体の事務所として使えるスペース
- 会議やワークショップができる

○コミュニティスペース

○遊べる場

→子どもが気軽にボール遊びなどができる

○既存施設を地域の間として活用しよう

→こども文化センター、いこいの家、公園、学校

○移動の支援

→レンタサイクル

→移送ボランティア

区域の施設

○屋外スポーツ施設、雨天でも使える屋内スポーツ施設、公園の活用

→音楽フェス、芸術イベントができると良い

○全区レベルの活動を支援する施設

→駅近にある

→コーディネーターがいる

○コーディネーターのしくみ

→ライトな助成金（手続きが簡単であることが大切）

→PR 支援／活動団体情報のアーカイブ

→地域情報の提供

→人材のマッチング

テーマ2 地域活動をはじめるキッカケ

○まちを知る、麻生を好きになることが地域とつながるきっかけになる

○自分のリソースや、趣味を生かせる

→楽しさが大事

→利害関係がない

→飲み会など敷居の低い入り口

○地域での仕事づくりも必要

→地域の働く場でできると良い

○SNS の活用、誰にでも伝わる情報の入り口

テーマ3 団体同士の連携を広げるアイデア

つながる場

○ラウンドテーブル

- 地域のステークホルダーが集まって、地域課題を協議する場
- 地域の団体がつながって課題解決に取り組める場

○合同イベント

- 市民活動団体の見本市のような、団体を知り、つながる機会

人材マッチング・コーディネーター

○コーディネーターの育成が大事

- コーディネーターが仕事として成り立つ

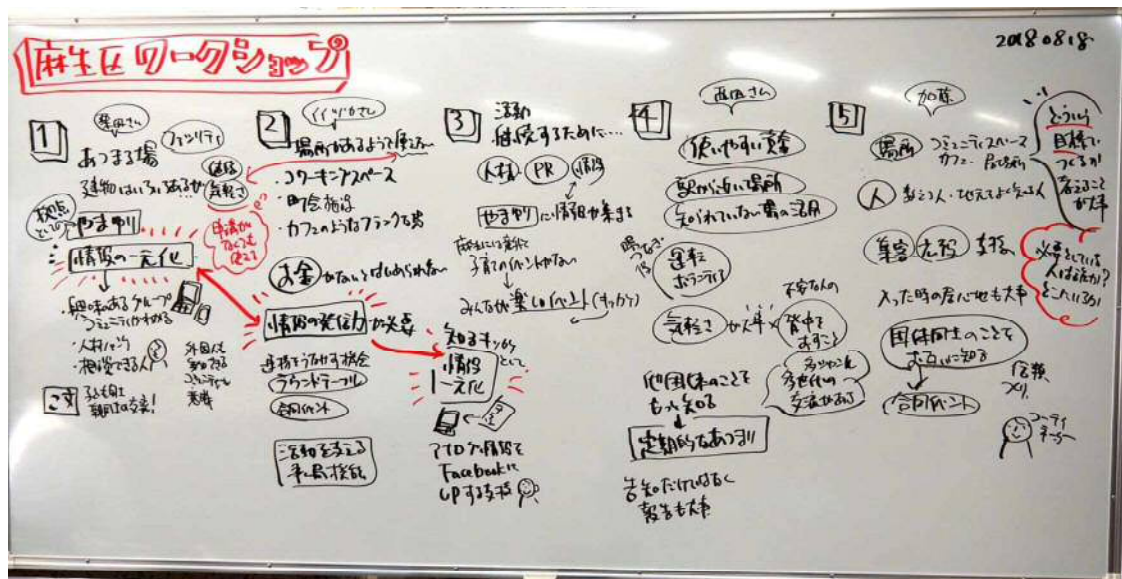
○活動のスタートアップ支援

- 企業を巻き込んでコラボする

○合同事務局機能

- 小さな団体の事務機能をサポートしてくれるしくみ

グループ発表



1グループ

- 集まる場、建物はいろいろあるが、手頃な値段・気軽さなどが大事
 - ・やまゆりは拠点として実績がある
- 情報の一元化が大事
 - 興味のあるグループコミュニティが分かる
 - 人材バンク
 - 相談できる人がいる、ここに来れば分かるという場がある
 - 外国人も参加できるコミュニティも意識することが大切
- こども文化センター：子ども同士、親同士の交流！

2グループ

- 場所があるようで、気軽に使えない？
 - ⇒こんなスペースがあったらいい
 - コワーキングスペース（申請がなくても使える／シニアも使える）
 - コミュニティスペース
 - 街角カフェ（区民が気軽に行ける場／事業として成り立つ）
- お金がないと始められない
 - スタートアップのための資金サポート
- 情報の発信力が必要
 - ・連携を促す機会
 - ラウンドテーブル
 - 合同イベント
 - ・活動を支える事務局機能が必要

3グループ

- 活動を継続するために必要なもの
 - ・人材、PR、情報
 - ・やまゆりには情報が集まる

- 麻生区には意外に子育てのイベントがない
 - キッカケとして、みんなが楽しいと思うイベントがあると良い
- （活動を知るキッカケとして）情報の一元化が必要
 - チラシなどのアナログ情報を Facebook にアップする支援

4グループ

- 使いやすい資金支援があること
- 駅から近い場所で人が集まりやすい場所が欲しい
 - 知られていない場の活用
- 運転ボランティアによる移動支援
 - 場のつなぎ役
- 気軽さが大事
 - 不安な人の背中を押すこと
- 他団体のことをもっと知ることができる定期的な集まりがあると良い
 - 多ジャンル多世代の交流がある
 - 告知だけでなく報告も大事

5グループ

- 場所
 - ・コミュニティスペース、カフェ、居場所
 - ・どういう目標でつくるのか考えることが大事
 - ・入ったときの居心地も大事
- 人
 - ・教える人、地元をよく知る人
- 集客、広報支援
 - ・必要としている人は誰か？どこにいるか
- 団体同士のことをお互いを知る→合同イベント
 - コーディネーターの存在が大事

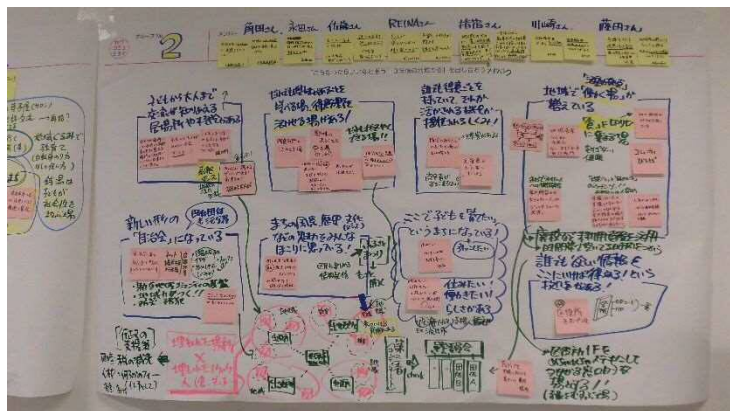
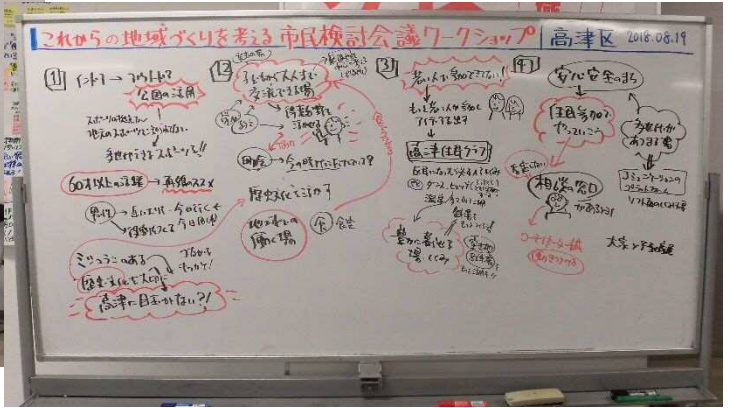
これからの地域づくりを考える

市民検討会議ワークショップ

高津区 開催結果概要

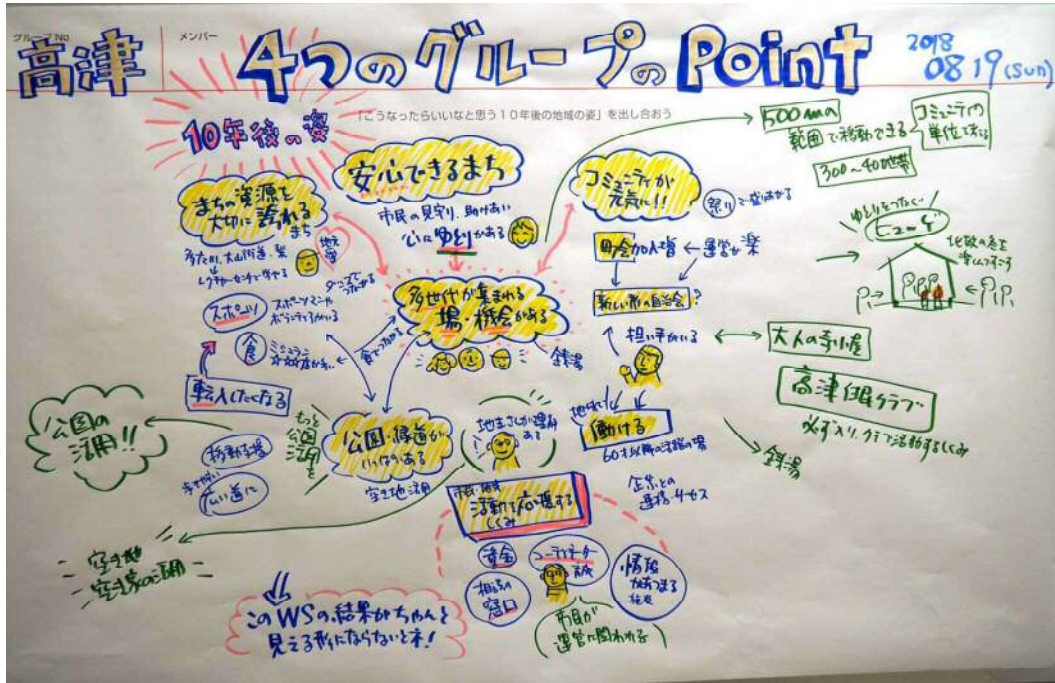
- ◎開催日時 2018(平成30)年8月19日(日) 14:30～17:50
- ◎開催場所 にこぶら新地～二子新地のアート×コミュニティスペース～
- ◎参加者 26名 他22名(事務局、コンサルタント、各区傍聴者)
- ◎内容 開会あいさつ 中村市民文化局コミュニティ推進担当部長
ワークショップの目的と進め方
チェックイン(自己紹介)
グループワーク
 - ・テーマ1 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を出し合おう
 - ・テーマ2 「こうなったらいいなと思う10年後の地域の姿」を実現させるためのアイデアを出し合おうグループワークの発表
閉会あいさつ 高梨高津区長
チェックアウト
- ◎出された主な意見
 - ・インドアからアウトドアへ、公園の活用し多世代ができるスポーツを
 - ・60歳以上の活躍、地域での新しい働き方
 - ・地元企業との連携によるまちづくりの展開
 - ・高津の歴史文化を活かしたつながりやきっかけづくり・まちの資源を誇れるまちへ
 - ・多様な担い手が集まる新しい形の自治会も必要なのでは
 - ・もっと若い人が参加しアイデアが出せるしくみづくり
 - ・多世代が集まる場としてコミュニケーションのプラットフォーム、ソフト面のしくみが必要





市民検討会議ワークショップ（高津区）のまとめ

4つのグループの Point



「こうなったらいいなと思う 10 年後の地域の姿」を出し合おう

まちの資源を大切に誇れるまち

- 多摩川、大山街道、梨
 - レクチャーセンターでまちについて学ぶことができ、地元愛が育まれる
- スポーツ
 - 多様なスポーツマンや、スポーツボランティアがいる
 - ダンスを通して多様な人たちがつながる
- 食
 - ミシュラン三ツ星店が多いまちになる



- 転入したくなる魅力があるまち

安心して暮らす

- 市民の見守り、助け合い、心にゆとりがある

多世代が集まれる場・機会がある

- 食でつながる
- 銭湯が地域につながる場として生きる

公園・緑地がいっぱいある（もっと公園活用を）

- 公園の活用!!
- 空き地活用
- 歩きやすい広い道に
- 移動支援

コミュニティが元気に！

- 祭りで盛り上がる
- 町内会・自治会の加入者増／新しい形の地縁組織へ
 - 地縁組織の運営が楽になり、若い世代も関わりやすい
- 地域の担い手がいる
 - 大人の寺子屋
 - 高津住民クラブ（必ず入り、クラブ活動するしくみをつくる）
- 地域で働ける
 - 60歳以降の活躍の場
 - 銭湯（地域ぐるみで孫育て）
- ゆとりをつなぐヒュッゲ（デンマーク語で「居心地がいい時間や空間」の意味）に学ぶ
 - 北欧の冬を楽しんで過ごすという考え方

コミュニティの単位を考える

- 500mの範囲（300～400世帯）で移動できる

市民・地域活動を応援するしくみ

- 地主さんが地域活動に対して理解がある
 - 空き地・空き家の活用
- 資金
- 相談の窓口
- コーディネーター育成

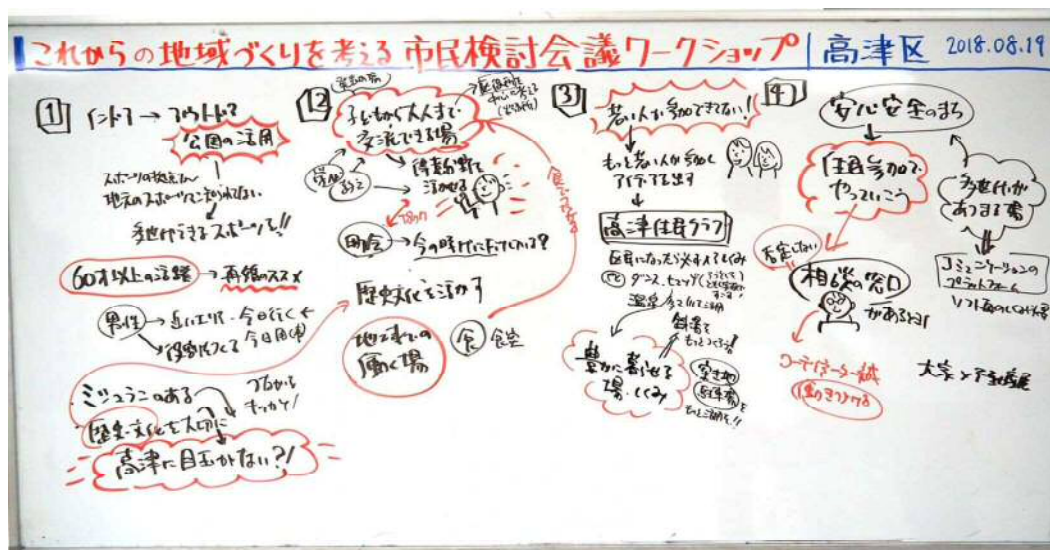
→市民が運営に関わる

○情報が集まる施設

その他

○このワークショップの結果がきちんと見える形になることが大切！

グループ発表



1グループ

○インドア→アウトドアへ（公園の活用）

→スポーツの拠点が地元のスポーツマンに知られてない

→多世代ができるスポーツを!!

○60代以上の活躍

→60代からの再婚のススメ（孫を通して出会う）

○男性はキョウイク・キョウヨウが必要

→近いエリア→今日行く

→役割をつくる→今日用（事）

○歴史・文化を大切に

→歴史・文化を地域のつながるきっかけに

→高津に目玉がない?!（ミシュランの星3つの店があるまちへ）

2グループ

- 子どもから大人まで交流できる場
 - 世代を越えて学び合い、教え合える場
 - 得意分野を生かせる
 - ダンスを通じた交流・発表の場・盆踊りから盆ダンスへ
 - 区役所を中心に考える（出張所）

- 今の時代にあった町内会・自治会とは

- 歴史・文化を生かす

- 地域で働く場
 - 食堂
 - 食でつながる

3グループ

- 若い人が参加できてない！
 - もっと若い人が参加しアイデアを出す
 - 高津住民クラブ
 - 区民で必ず入るしくみ
 - ex.ダンス、ヒュッゲ（ろうそくを灯し家族で過ごす）、温泉、多摩川を活用
 - 豊かに暮らせるしくみ
 - 銭湯をもっとつくろう！
 - 空き地駐車場をもっと活用を！

4グループ

- 安心・安全のまちが大事
 - 住民の満足度が高いまちへ

- 市民主体の地域活動が盛んなまちにしよう
 - 仕事として続けられるコーディネーターを育成する
 - 相談の窓口があると良い（=否定しないで受け入れてくれる）

- 多世代が集まる場

→コミュニケーションのプラットフォーム

→ソフト面のしくみ必要

○不動産、大家がもっとまちづくりに関わるまち